

平安・鎌倉時代の 信仰と生活

令和6年度
秋季ミニ展示

—都にあこがれた在地領主たち—

はじめに

奈良盆地中央に位置する田原本町は、大和川水系に挟まれた肥沃な耕地が広がる田園地帯として弥生時代以来人々が生活し続けてきました。

この田園地帯で徐々に力を付けてきた在地有力者層は、平安時代後期から中央の貴族と「荘園」の寄進という形で関係を築き、在地領主としての権威付けを図りました。そして、貴族の力が衰えはじめると、寄進先を興福寺に替えるようになります。

今回のミニ展示は、在地領主が中央貴族の都での生活を模倣し、信仰文化にまでその影響が及ぶようになった状況を、発掘された資料からたどります。

11～12世紀の十六面・薬王寺遺跡

十六面・薬王寺遺跡は田原本町中央付近、寺川と飛鳥川に挟まれた沖積地に立地します。この遺跡の中央には中世の在地豪族「保津」氏の城館跡と推定される「保津氏居館推定地」が広がります。発掘調査から、13～14世紀の環濠をもつ城館跡を確認し、多数の井戸などから生活関連遺物や茶道具などが出土しています。

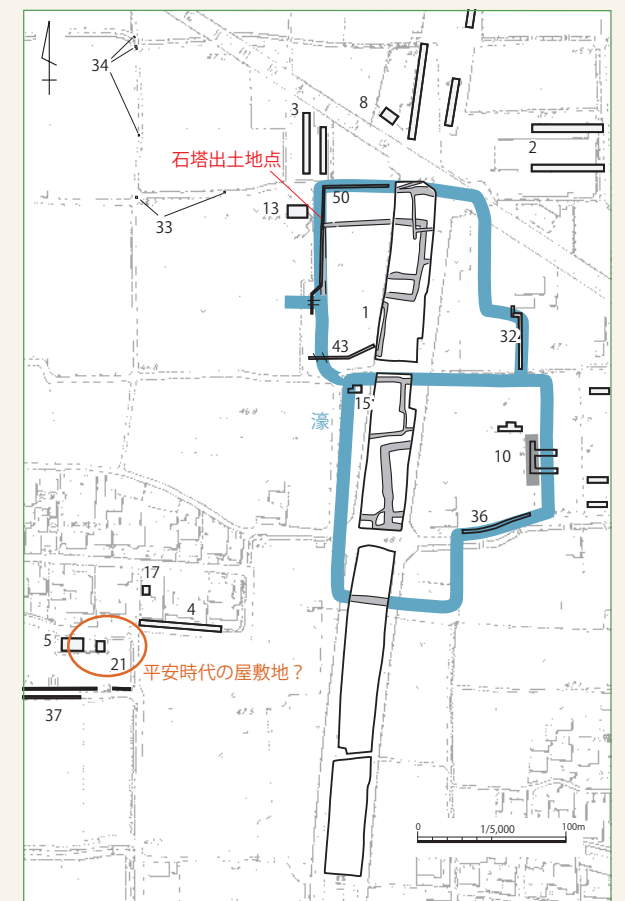
十六面・薬王寺遺跡では、平安時代後期に遡る遺構も数多く確認しています。特に、保津氏居館推定地の南西側100 m付近、現十六面集落内で実施した21次調査では、井戸から扇や箸、墨書土器など在地領主の存在を想定させる11世紀頃の遺物が出土しました。

保津氏居館推定地の北西端で実施した第50次調査では、13世紀頃に埋没したとみられる環濠の上層から、凝灰岩製の宝塔などがほぼ完全形で出土しました。平安時代後期～鎌倉時代初め頃に遡る遺物とみられます。この時期の凝灰岩製宝塔は、鞍馬寺の経塚出土資料程度しか類例が知られていない希少なものです。なお、石材は香川県の火山石が使われていることが奥田尚氏の分析で判明しています。屋敷墓に使われたものか、経塚のようなものが付近に祀られたのかは判りませんが、中央貴族の信仰活動を地方在地領主も模倣しようとしたことがわかります。

末法の世を迎えようとしていた平安時代後期の人々にとって、経塚のような形で仏教の思想を後世に伝えることは大きな功德と考えられていました。十六面・薬王寺遺跡の北東に隣接する保津・宮古遺跡付近(常楽寺推定地)では泥塔が多数出土しており、こちらも同様の信仰活動の痕跡と考えることができそうです。

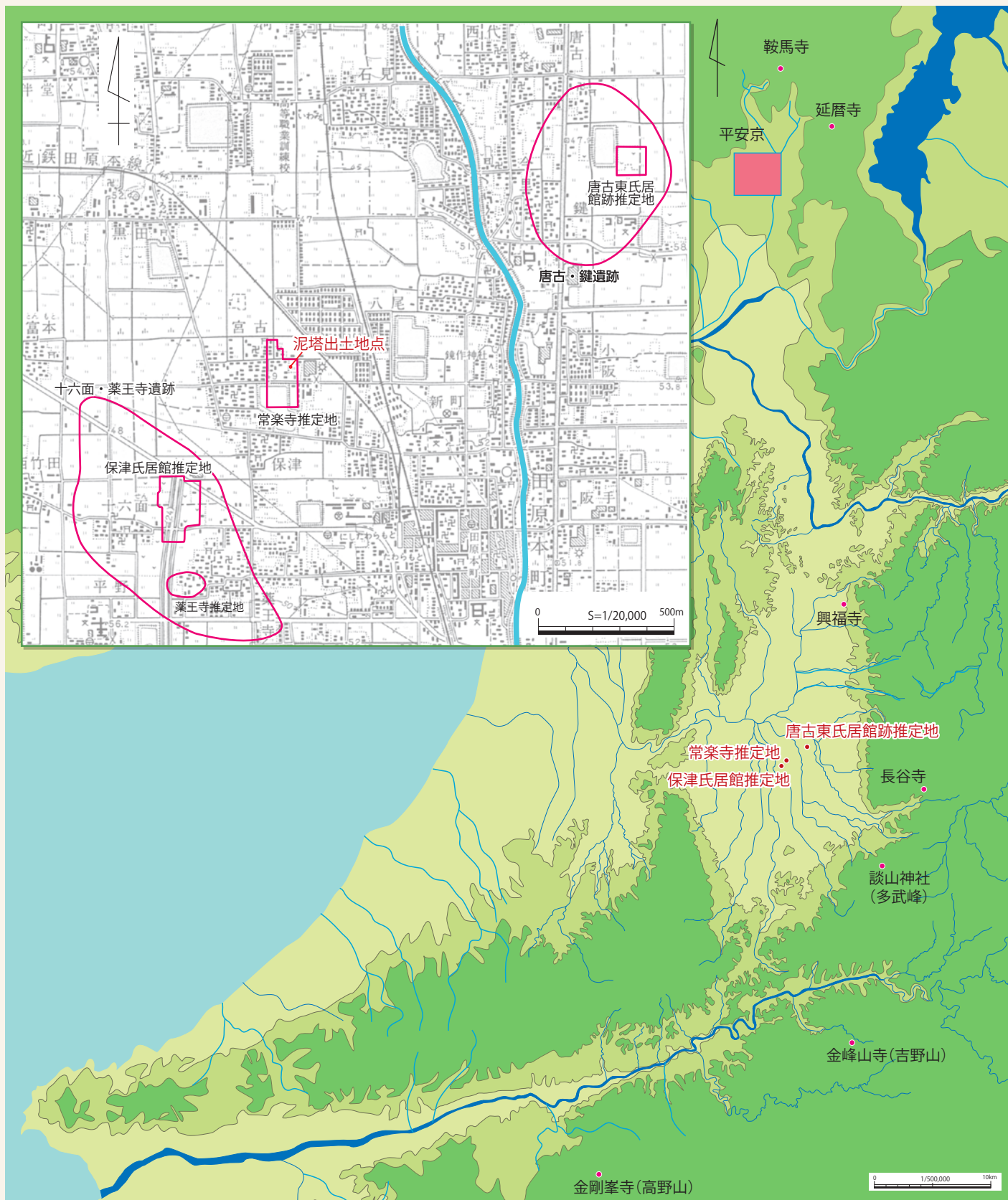
※経塚 仏教の経典を埋納して後世に伝えるために金銅や陶器の容器に仏典を納めて埋める風習が平安貴族の間で大流行した。ほとんどの経塚は有名寺社に近い山間部に埋納された。

※末法 平安時代に大流行した、釈迦入滅後千年で仏法の教えがきちんと伝わらなくなる「末法」の到来をおそれる思想。



十六面・薬王寺遺跡のこれまでの調査成果と城館遺構

国道24号バイパス建設工事時におこなわれた第1次調査では、平安時代～中世末の遺構が多数見つかりました。特に室町時代前後には周囲を濠で囲む城館を営んでいたことがわかりました。付近の小字名から、保津氏の居館と推定されています。



令和6年度秋季ミニ展示

平安・鎌倉時代の信仰と生活 —都にあこがれた在地領主たち—

会期：令和6年9月21日(土)～11月24日(日)

会場：田原本青垣生涯学習センター2階廊下(唐古・鍵考古学ミュージアム前)

関連事業：講演会 令和6年10月14日(月・祝) 13:00開場 13:30開演 於：青垣生涯学習センター2階研修室

「田原本町の平安時代末～鎌倉時代初頭の集落と遺物」清水琢哉(田原本町教育委員会)

「十六面・薬王寺遺跡出土の石塔を探る—紀伊の平安～鎌倉時代の石塔から考える—」北野隆亮氏(和歌山市わかやま歴史館)

唐古・鍵考古学ミュージアム
奈良県磯城郡田原本町大字阪手233-1

発行：令和6年9月21日
印刷：株式会社明新社

